2025 年度・総合政策プロジェクト研究 募集要項

文明と宗教
―キリスト教文明の光と陰に関する歴史的・実証的研究―

担当者氏名：山田 望
（研究室番号：Q6011）

1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

S. ハンチントンがその著書『文明の衝突』の中で指摘したように、文明を形作る最も特徴的な要素が宗教である。現代文明や現代の国際問題には、宗教を巡る諸問題が多かれ少なかれ付随していることが少なくない。とりわけ、古代から中世にかけての地中海世界では、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教という３つの一神教世界と、それ以外の多神教世界とが、それぞれ多様な緊張関係を孕みながら、各々独自の文明世界を構築してきた。

本プロジェクト研究では、中心的テーマとして、地中海世界の宗教の中でも、古代キリスト教の成立と中世におけるその発展がもたらした功罪両面の諸問題について、歴史的・実証的に研究することを目的とする。しかし、必ずしもキリスト教のみに拘る必要はなく、広く地中海世界における文明と宗教に関するテーマを選択することができる。研究の際、特に重要な前提として、あくまでも歴史学の方法論を駆使して研究を行うことが要求され、したがってこの研究に取り組む者は、極力、宗教的偏見や護教的見解からも自由であることが求められる。

自分自身が、いかに独自の思想的、宗教的に堅固な価値観を持っているとしても、歴史的、実証的研究には、対象にアプローチする際、その自らの価値観から一旦は自分自身を切り離して、きわめて冷徹な目で歴史の実態に迫るという、ある種「禁欲的」作業を経なければならない。そうでなければ、歴史の現実を色眼鏡や護教的意図によって歪めてしまい、結局のところ、価値の読み込み、あるいは自分の価値観の押し売りになってしまうであろう。歴史研究においては、その「禁欲的」アプローチを徹底してもなお、自ずとその研究全体から滲み出てくる内発的な価値こそが最後決定的に重要な価値観へと繋がるものである。本プロジェクト研究では、そのための歴史学研究の基礎と基本的方法論の習得も重要な課題の一つとして位置づけている。

2. プロジェクト研究の進め方

3 年次春学期全ての授業と秋学期開始後数回の授業は、講義形式で進められる。ゼミ生は、その間、与えられた宿題や課題をこなすことが求められる。3 年次秋学期中盤から、各ゼミ生の研究発表とディスカッションにより授業を進める。4 年次春学期には卒論テーマの決定、ゼミ発表、

ディスカッションにより授業を進める。4 年次秋学期はゼミ発表と卒論執筆の個別指導の両方により、卒業論文の完成を目指す。

3.　プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

前提要件ではないが、文明論科目、地域と文明Ｂ（ヨーロッパ)、歴史と文明 などを履修しておくことが望ましい。

なお、このプロジェクト研究を希望する学生は、原則、3 年次の Ｑ２に開講される総合演習 B（担当：山田望）を履修すること。(やむを得ない理由で履修が難しい場合には相談すること)。このプロジェクト研究を希望する場合には、いずれのコースを履修しても構わない。

4.　プロジェクト研究開始までの準備

漠然としたものでよいが、どのような歴史的対象を扱いたいのか、時代や地域、状況について自分なりのイメージを描いておくこと。

5.　その他

研究対象には、各種文献史料のみならず、碑文、遺跡や都市発掘現場などの考古学的史料も含まれる。研究テーマによっては、音楽や美術、文学作品など文明の所産としての芸術・文化的資料も含まれる。

6.選考方法

まず、志望動機の記載内容を見て判断する。歴史学的思考や文献研究、考古学研究の地道な作業に違和感のない人、何事にも積極果敢に熱意や意欲をもってチャレンジしようとする人が望ましい。応募多数の場合は、小論文を課した上、面接選考を実施することがある。

以上